

1. 4 滋賀県立琵琶湖博物館と安土城趾の見学（地歴分野）

(1) 研究開発の課題（研究概要）

琵琶湖博物館の見学を通して淡水の生き物と環境、人々の暮らしを考える契機を促すことができる。戦国時代の終わりの始まりを成し遂げた織田信長の居城跡から、安土の町並みの町割を考える契機を促すことができる。

(2) 研究開発の経緯

3年ごとに第1次産業（農場）、第2次産業（工場）、歴史的建造物・町並みを対象として見学場所を設定していたが、本年度は琵琶湖の環境問題と安土の歴史的町並みでワークショップを実施した。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説（ねらい、目標）

本事業は科学への関心や批判的思考力などの「科学リテラシー」を促すことができる。

イ 研究の内容・方法

該当教科 地歴・公民科

対象生徒 1・2年希望者 22名

日時場所 10月29日（日）滋賀県立琵琶湖博物館
安土城考古博物館



安土城考古博物館

実施内容

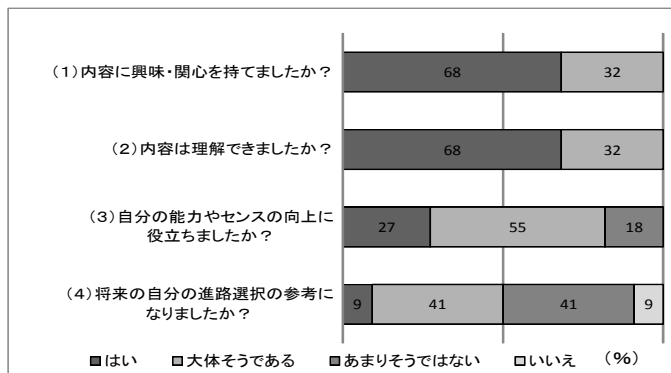
見学「滋賀県立琵琶湖博物館・安土城趾の見学」

目的 見学を通じて琵琶湖の環境と環境問題を理解する。琵琶湖周辺の人々の暮らしを理解する。安土城趾に登り、安土の町並みを見学する。

内容 博物館施設見学・質問コーナー専属学芸員への質問。

台風による豪雨のため、安土城趾から安土城考古博物館に、見学場所を変更。

ウ 検証（成果と反省）



生徒の感想から

- ・琵琶湖では外来生物が増加して、国内固有生物が絶滅の危機にあることに驚いた。
- ・水族館のエリアの見学では、琵琶湖の豊かな生態系に心を奪われました。その生態系を損なわないような生活を人々がせねばならないと思った。雨で安土城趾に登城出来なかったのは残念でした。

博物館の見学を通じて、琵琶湖の自然・環境問題を考える契機となった。2年生理系生物選択者は淡水の生き物に興味・関心を高めることができた。また2年生理系地理選択者は琵琶湖の成り立ちの展示を通じて、断層湖の成を把握することができた。自然地理、小地形に対する知識向上にも貢献した。しかし進路選択には参考にならなかった。

